



号外 (昭和30年6月15日第三種郵便物認可)
発行所 郵便番号100-8910 東京都千代田区永田町1-11-23
自由民主党本部 電話 東京03(3581)6211(代表)
定価1部 105円(税込) <毎週火曜日発行>
LIBERAL&DEMOCRATIC
自由民主党ホームページ <http://www.jimin.jp/>



平成27年(2015年)6月12日 <1>
川崎市議団NEWS
発行責任者/自民党川崎市議団 橋本 勝

市長公約をチェック

自民党川崎市議団では、毎議会市長の公約に対する取組または達成具合についてチェックをしております。公約の一つであります、「市長の退職金ゼロ」は、着任後直ちに議案として上程されるのかと思っておりましたが、1年後つまり昨年12月本会議によりよく提案されました。

さて、今回は「中学校完全給食導入」についてであります。運用開始が平成28年度であったのが、平成29年度と1年間延びたと報告されました。受注希望の業者等から、事業スケジュールの見直しについて多数の意見があったとあり、理由は建設需要の逼迫、建設人材・建設資材の不足等の状況からとのことでした。

しかしながら、それらの事は、予め分かり得る事であり、何故当初から予定に組めなかったのか不思議でなりませんし、事業費の増に繋がる恐れもでてきます。その結果、今年入学される中学生が最後の1年給食を食べられるかどうかとなってしまいました。

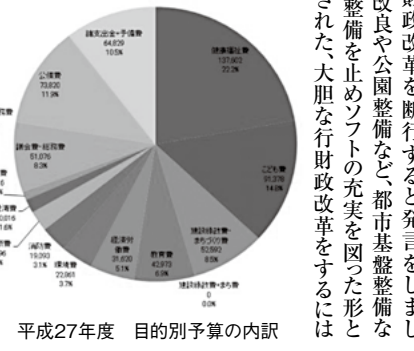
これ以上の遅れは公約にも反するし、許されないと意見をしながら、地産地消の安心で安全な食材提供をJAセレサと連携を図りながら進めていたのだと要望させていただきました。

選挙によって選ばれた市長でありますので、今後も公約に対するチェックをしながら皆さんにご報告を行って参ります。

ご意見は下記、ホームページから
<http://自由民主党川崎市議団.jp/index.html>

平成27年度予算、小児医療費助成拡大へ!

「後憂予算」とならないよう指摘!
平成27年2月26日我々、自由民主党川崎市議団は、福田市長以下各局長に対して、平成27年度の当初予算、諸議案並びに市政一般について質問を致しました。平成27年度予算は、一般会計で6千189億円と過去最大規模となりました。市税収入は、2千963億円と2年連続で過去最大、市債発行は、516億円となり昨年度を下回る形となりました。しかしながら、減債基金からの新規借入で54億円を計上し、依然として厳しい財政状況を示しています。川崎市の予算合計では、特別会計4千995億円、一般会計2千204億円を合わせて1兆3千387億円となり、前年度比28億円増となりました。一般会計の歳入の傾向は、税率の引下げにより法人市民税が11億円減となりましたが、人口増、所得の増などで32億円増、固定資産税も12億円増となっています。



平成27年度 目的別予算の内訳

今回の予算は、福田新市長が、サマー、オータム両レジェーなど本格的に関わり、二から市長が作った予算となりました。そのため、福田カラーが色濃く反映されています。まず傾向として、小児医療助成制度の小学1年生から2年生への拡充、待機児童解消への保育所増設など、子ども関連予算の増額で、ハードよりもソフトへの予算配分が目立ちました。昨年の予算議会でも、我々、自民党は、本市の財政収支見直しは、平成27年度△42億円と想定されることから、更なる行財政改革の必要性を訴えました。市長は、自身の公約撤回を踏まえて、スクラップアンドビルトをさらに進めて、スクラップスクラップアンドビルトと銘打って、大胆な行財政改革を断行すると発言をされました。結果として、駅の改良や公園整備など、都市基盤整備など延期され、ハードの整備を止めソフトの充実を図った形となりましたが、公言された、大胆な行財政改革をするにはなりません。また、川崎市の総合計画は未だ発表されず、財政フレームについての言及もありませんでした。市長は公約で、今年の4月には、待機児童を解消すると約束していますが、2月の時

点で、約2千700人の入所保留者が出ている状況です。こうした不安が残る状況ではありますが、我々自民党川崎市議団は、市長の公約をチェックしつつ、国の成長戦略と連携し、デフレ脱却を目標に、持続可能な都市を創造し、誰もがいきいきと快適に暮らせる川崎を目指して、都市運営に責任を持って取り組んで参ります。

子ども子育て新制度と待機児童解消を目指して!

「後憂予算」とならないよう指摘!

平成27年度予算案を審査 自民市議団が新たな提案!

平成27年 第1回 川崎市議会定例会 3月定例会 ご報告

平成27年2月13日から3月18日までの会期中、第1回川崎市議会定例会が行われました。この度の定例会では、平成27年度予算案が議会に提案されました。特徴は、社会保障関連費を含む扶助費の一般会計に占める割合は

25.5%となり、初めて4分の1を超える割合となりました。今後、増崇の見込まれる予算に対して、市民サービスをいかに持続的に発展させていくのが、論点となりました。主な質問を、以下、御報告申し上げます。

国の緊急経済対策で補正予算!

国の緊急経済対策による「プレミアム付商品券」発行で市内経済の活性化を国による平成26年度補正予算として総額3兆5千億円を拠出する決定がなされました。その内、地域住民生活等緊急支援のための交付金を創設し、本市には7億9千700万円が割り当てられることとなりました。地域経済の活性化に資するよう、消費喚起生活支援型という用途内容となっています。

具体的な施策は自治体に委ねられましたので、本市の考えを質したところ市内全域の商店街や大型店街で使える、プレミアム率20%、総額33億円の消費喚起型商品券を発行すること明らかにしました。本年の秋口に商品券を発行し、年末までに使用していただくという事業スケジュールであります。

経済の好循環につなげるよう様々な創意工夫が必要との指摘に対し、実行委員会を立ち上げ、消費者にとっての利便性確保、購入上限の設定、より多くの店舗での取り扱いなど、効果的な事業実施となるよう検討していくとの答弁がありました。

次に、事業の乗数効果についての見解を求めたところ、新規事業のため具体的な数字を挙げるのが難しいとの見解でありました。しかしながら、公金支出の観点からも最大限の効果を生み出せるよう、過去の類似事業(地域振興券交付事業・定額給付金事業)の検証を活かすべきとの指摘したところ、実績について詳細な事業について十分に把握していない旨の見解が示されました。

事業の検証を行った上で、効果的効率的な実施をしていくことは、行政として当然の責務であり厳しく対応を求めました。また、この事業によって錬金術のような不正が起らないよう、事業の信頼性についても充分な対策が必要であることも指摘しました。「ローカルベンロミクス」により、地方創生・経済の活性化に資するよう自民党川崎市議団は積極的に取り組んでまいります。

見る・聴く・動く 橋本まさる市政報告



平成27年度多摩区投資的事業(一部抜粋)

【市民・子ども局】	
・民間保育所の整備(宿河原保育園建替)	133,515千円
【建設緑政局】	
・歩道設置事業(市道登戸174号線ほか)	44,851千円
・交差点改良事業(交差点カラー化など)	7,470千円
・自転車通行環境整備事業(主要地方道世田谷町田)	10,400千円
・大規模補修事業(道路冠水対策ほか)	68,900千円
・道路整備事業(主要地方道川崎府中ほか)	851,650千円
・自転車等駐車場整備事業(向ヶ丘遊園駅周辺新築工事ほか)	645,251千円
・五反田側放水路整備事業(函体部築造工事ほか)	1,283,492千円
・公園防災機能向上事業(ソーラー式公園灯ほか)	51,233千円
【まちづくり局】	
・登戸地区土地区画整理事業の推進	3,619,079千円
・南武線駅アクセス向上等整備事業(稲田堤駅橋上駅舎化)	607,172千円
【消防局】	
・救急車両の整備(高規格救急自動車 栗谷出張場)	31,634千円
【教育委員会】	
・体育館の再整備による改修(登戸・三田小学校 設計)	6,148千円
・中学校給食施設整備事業(中野島中学校給食室の設計)	4,968千円
・日本民家園総合防災設備の整備	82,310千円
【上下水道局】	
・管きよの整備(下水)(雨水管の整備 登戸地区ほか)	366,301千円
・施設再構築事業の推進(上水)(生田配水池等更新工事ほか)	4,690,856千円
【交通局】	
・バス停留所施設整備事業(百合ヶ丘高校前上屋更新)ほか	4,910千円


川崎市は昨年90周年の節目でありました。記念すべき市制100周年にむけて新たに歩み始めたところがございます。その間の大事な4年間の任期につきまして、改めて職責を果たせるよう努力して参りますので、旧に倍してのご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

平成27年4月12日執行の川崎市議会議員選挙において3期目の当選をさせていただきました。お預かりさせていただきましたバツジに恥じないよう、自覚と責任をもって職責を果たして参る所存でございます。

本市は行財政改革を推進し、必要な市民サービスを維持しつつ効率的かつ効果的な市政運営を進めてまいりましたが、人口増の一方で高齢者の著しい増加や、生産年齢層の減少、財政上の収支不足が見込まれることなど、引き続き厳しい市政運営を余儀なくされます。今まで以上に財政規律を遵守しながら、持続可能な社会の構築に向けて時には厳しい対応も念頭において、議会として行政側との対応に取組んでまいります。

市民委員会委員長に就任

改選後の臨時会が5月25日、26日の日程で開催されました。その際、私は市民委員会の委員長職を拜命致しました。市民委員会の所管は、市民・子ども局、子ども本部、経済労働局、港湾局となっております。子育て施策全般から、市内中小企業振興施策や農業施策、港湾の活性化など多岐にわたる事業について議論し、行政のチェックを行ってまいります。川崎市議会は常任委員会での議論、審査が重要視されています。市民皆様の負託に応えられるよう、全力で取組んで参ります。



川崎市議会議員

橋本 勝

は し も と ま さ る

- プロフィール 昭和49年5月25日 川崎生まれ
中央大学経済学部卒業
平成10年4月 田中徳衆議院議員秘書
平成27年4月 川崎市議会議員選挙3期目当選
- 経歴 平成23年度 総務委員会委員長
平成24年度 環境委員会委員
平成25年度 健康福祉委員会副委員長
平成26年度 まちづくり委員会委員
平成25・26年度 自民党川崎市議団副団長
平成27年度 市民委員会委員長